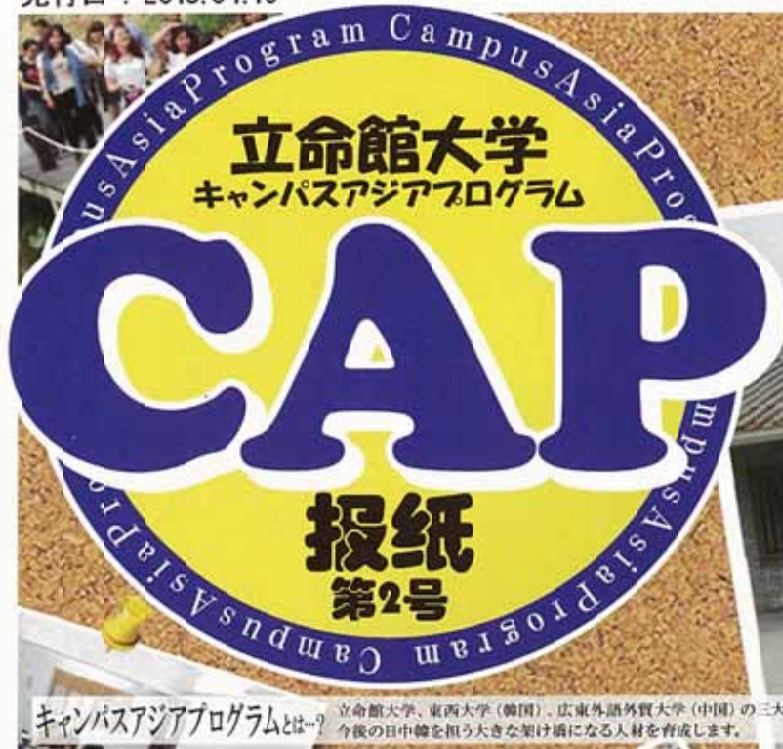




キャンパスアジアプログラムとは？ 立命館大学、東西大学（韓国）、広東外語外貿大学（中国）の三大学共同プログラムです。今後の日中韓を担う大きな架け橋になる人材を育成します。



日本総領事館訪問

3月中旬、在広州日本国総領事館・伊藤康一総領事からのお招きで、花園大厦で開かれた親睦会に出席して参りました。多くの関係者の方々が私たちを笑顔で迎えて下さり、楽しい時間を過ごすことができました。

3月17日夜6時、親睦会は伊東総領事からの暖かいお言葉で幕が開きました。緊張しながら述べたお礼の挨拶。固い顔つきのまま始まってしまいました。が、領事館の方々の心遣いもあり緊張はすぐにはどく事ができました。

お部屋は日本人形やシャン

デリアが飾られ和洋折衷の趣。大きなテーブルに並べられた彩り豊かな中華料理と目の前で握られるお寿司。また、料理を楽しむながら開かれた着物の着付けの実演に鄭多娟さんがモデルとなつて、見事なまでの大和撫子へと変身を遂げました。美味しい料理と笑い声に、交流は3時間近くにわたりました。

在広州日本国総領事館では、今回だけに限らず普段から中国の大学と共催で、茶道交流会など日本文化を広める催しが行われています。もちろん中国の大学においても日本文化の研究は盛んであり、またその多くが古来中国より伝来した文化が、日本において独自の発展を遂げてきたものでもあります。

最近の日中韓の3カ国の間には、未だ歴史面や政治面における様々な課題が残されて

います。最近では近隣国の情勢の変化もあり、それらの課題はより早急な解決が望まれています。今後3ヶ国に融け込んだ互いの国の文化や、それらをもたらし、民間交流が深まっていける事こそが、3ヶ国の友好な関係をより確かなものとするのではないのでしょうか。私たちが参加している「キャンパスアジアプログラム」は、そのような理想の東アジア像を実現するために、意義あるものと思わずにはいられません。

プログラムの発足以前より、各国首脳会談などの場で学生交流促進の協議を見守ってこられた伊藤総領事に、3ヶ国の学生一同で会えできたことは感慨深いものでありました。にぎやかな広州の街の夜景を前に開かれた在広州日本国総領事館での交流会は、学生たちにとって忘れられない夜となりました。

（山本郁子）

3月下旬 開平で中国歴史体験!!

3月24号

第二天

星期天

民国时代富豪遗留的痕迹



立園の風景。広闊地基里有好几个望楼。

第二天、我们吃了早餐就从酒店出发。早上下了点雨，所以我们担心不能去观光，但是还没到中午雨就停了，所以见习很顺利。满意。第二

天的目的地是：立园。立园是中华民国时代的富豪建造的庭园。立园里鳞次栉比、自称一带村落。开平市多华侨居住，这个庭园的创立者也是在北美发展成功的一位华侨，所以他设计了中式、西式以及中西合璧的建筑。参观的时候能感受到中国和西洋的文化交流。

因为立园也有博物馆，所以能够学到专业的历史知识。在那里也能参观房屋内部，里面保存着以前人们使用的床啦椅子等，让我们能够了解当时的情况。还有周围的环境几乎还没开发，有一片开阔的农村风景，给我穿越时空的感觉。大多数历史观光地的周边已经很现代化了，但是在这里看不到现代文明社会的风景。从望楼里往外

回去的时候从车窗看见风景

接着，我们坐巴士回宿舍。这时我们看到的风景也是令人印象深刻的。不但在立园附近，开平处处看到农村的风景，和广外周边不一样，感觉很特别。我们发现，开平所在的江门市虽然也与广州一样地处江南，生活方式却大不相同。这两天我们学到了很多，是难得的体验。

(吉野皓平跟朋友)



看到的风景让我们似乎看到了它往日的风采。

田畑が広がる自力村の風景。楼閣が無数にあり、毎日多くの観光客がこの地を訪れる。

3月23号

第一天

星期六

開平「自力村」を訪れて――。

広州に来て一ヶ月が過ぎ、広州の生活にすっかり慣れてきた3月23日(土)・24日(日)、CAP学生28人全員で広東省の開平(大学から約3時間)へ1泊2日の

フィールドワークへ行きました。

1日目、私たちは開平の「自力村」を訪れました。自力村とは、安和里・合安里・永安里を合わせた地域の呼び名です。世界遺産として登録されている「开平碉楼」という建造物が数多く残っていることで有名です。开平碉楼とは、清時代に華僑たちが彼らの故郷に建てた5、6階の建物で、共産主義体制になった後、華僑達は再び海外に戻ったので碉楼は空き家のまま残りました。自力村には田畑が広がり、西洋のデザインを組み合わせた楼閣がそびえ立ち、私たちは不思議な光景に包まれました。楼閣の中は当時使われていた部屋や設備などがそのま

ま保存されており、当時の華僑達の姿が見えてきそうな程でした。薄暗い部屋から屋上に出た時、目の前に田園風景が遙か向こうまで広がり景色の美しさに言葉を失いました。

また、広場に設けられているステージでは、少数民族の伝統的な武芸や舞が行われており、きれいな清々しいパフォーマンスを見て最高の気分になり、私たちは清代ヘタムスリッパした気持ちでした。

(外山未祐)



在银行

这一次为了开户我又去了常去的那家银行。这家银行里的职员还是那个时候的叔叔。因为这次我们要开户，所以都带了护照过去。我们拿着护照的时候，大家想做的事情只有一件！那就是互相看护照的照片！CAP成员之间高兴地相互看照片的时候，那位叔叔当然也参加了，他看了我的护照的照片后就笑了。然后说：“这个照片是你吗？你有点儿长胖了哟。”啊，真糟糕！这个叔叔怎么这么没礼貌啊！对一个女性说这样的话，却一点都没有感到不好意思。哎呀，真是太糟糕了！在那之后，那叔叔一直在笑。但是，因为他是好意的，所以这次就勉强原谅他吧。唉！真是！

おもエピ★

キャンパスアジアで起きたエピソードをご紹介。
私たちが選んだエピソードをどうぞ楽しんで下さいね。

★記事担当：丸山と奥村と中国的朋友★

お買い物

ある日のこと。廣澤先生は学生6人を連れて近くのディープ街へ買物に行きました。そこはけして裕福とは言えない路地裏。こんな所初めてだと写真を撮っていると、原付二人乗りのおじさんが「お前ら何者？(中国語)」と声をかけてきた。怖いので無視していたら私服警官だったようで交番に連れて行かれました。警官「何してる？」先生「買物」と買った米を高らかに掲げたその瞬間、袋が破れてザバー(笑)さらに警官「何者？」先生「大学の教師」警官「証拠は？」先生「ある」と勢い良く出したものはシャワーカード。ええ？シャワーカード？もつとホラ…証明書とか(笑)誤解も解けて無事帰宅。シャワーカードハンパねえ。



立命館大学生
おさるのまさる君 第2話
作・こんどうけんいち

每天有汉语的课。
所以真挺太累了。



但是
等到吃饭的
时候就挺活泼。



不过他不可谓
中国的饭桌。
转动的饭桌。



最后经常
变成这样。

已经没有
最好吃的
菜了!



編集長のき
つぷや
編集長の近藤です。中面にもあるように皆でバス旅行に行ってきた。これまでも何度か思った事なんです。中国は日本に比べると随分信号が少ないです。スイスイ進む分、怖い思をする時もあります。車と横断者が多い交差点も信号はなく、それそれの自己責任のような感じです。それなのに事故を見かけたことはありません。

原付の後部座席に幼稚園ほどの子供、カゴに3歳ほどの幼児を乗せてダンプカーとバスの間をすいーと走り抜けるのも見慣れました。そのたび「ああ、この子達はきっと度胸のある大人に育つだろうなあ」と思います。中国のこういった所には日本は敵わないんじゃないかなって思ったり。僕たちもバイクに乗って中国横断ゆめ見てる
編集長のきつぷや

中国語授業風景



中国語の授業は「文法」「会話」に分けられています。もちろん授業は文法解説から難談まですべて中国語。そのため「早上好」から「谢谢老师」まで

ずっと集中しなければなりません(当然ですが)。しかしそんな授業もユーモア溢れる先生方のおかげで楽しく受けることができます。

文法授業は温愛華老師。複雑な文法も簡単な中国語を使って丁寧に説明してくれます。習った文法を会話で生かす工夫があり、生きた中国語が学

べます。また、授業中に頻出する「对不对」「可不可以」のフレーズは学生間で流行っており、先生の人気がうかがえます。会話授業は張老師。堪能な英語も交えながら、実際の会話時での細かいニュアンスまでしっかりと伝えてくれます。先生方の授業で覚えた新しい表現を実際の会話で使うたびに成長が感じられるような気がします。(坂下祥太郎)



海外の大学で活動中の先生や留学生をご紹介します!

日本語教師 永野千絵さん

初回である今回は現在、広東外大に留学中の永野千絵さんをご紹介します。永野さんは留学生として中国語を学ぶと同時に、日本語教師としても活躍されています。大学卒業後、日本で就職。その後、広州出身の中国人と知り合った事をきっかけに単身で中国に渡ってこられました。今年から中国人学生に日本語を教えた永野さん。「初めは両国の挨拶やマナーにズレを感じました。でも、授業を重ねることでどちらが優れているとかでなく、改めてお互いの文化の良さを感じ



ることができるようになりました。日中関係が不安定な今、テレビやネットだけでなく、見て聞いて肌で感じた中国を少しでも日本に伝える事ができればと永野さんは思っています。新しい生活と挑戦がスタートした春。広州の教壇で彼女の声が今日も響きます。(山本すみれ)